

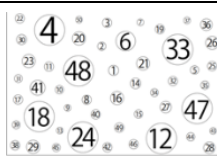



1 特別支援学級の実践（知的障がい学級、自閉症・情緒障がい学級）

教科及び内容	ねらいと理由	方法
個別の時間割の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学級に複数学年在籍する学級で、児童・保護者・教師が1日の流れを把握しやすくする。 ・ビデオ通話を介した個別指導の時間の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに色分け。 ・ビデオ通話の時間を特記する。 
手の微細運動の学習 (粘土でピザを作ろう、お箸のトレーニングをしよう。)	<ul style="list-style-type: none"> ・指先の多様な使い方を活動の中に仕組むことで、手指の使い方、力の入れ方を鍛える。 ・興味を引く活動を入れることで意欲と集中の持続。 ・実生活に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画で活動見本見せ、見通しを持たせる。 ・ビデオ通話で粘土べらやはし、手の使い方を個別指導しながら、活動を共有。 ・粘土がない場合は、小麦粉粘土を作り、豆がない場合は紙をちぎって丸め代用（作成もトレーニング）。 ・意欲と集中の持続のためゲーム要素を入れる。 
算数（面積、分数の計算、わり算） 国語（物語、詩の視写、説明文）	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元内容の目標達成 ・児童にとってオンラインでも達成可能な単元であり、教師も到達度が評価しやすい単元のため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて、まとめなどはノートの見本、スライドで示す。 ・学校で取り組んでいた課題、学習流れを継続的に実施。変更し弱いためオンラインで特別な流れは極力避ける。 ・ビデオ通話の場合はホワイトボードを板書として活用。 ・算数の習熟はドリル、国語は読解問題を作りノートやドキュメントで解答。
自主学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自力学習の力と学習習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方や第1時は、ビデオ通話で個別指導。 ・タイピング、日記、時計を読むなど単純な内容にする。 ・内容追加、方法変更の場合は必ず事前指導を行う。

・その他…Classroom に掲示する課題は、文字が多くならず、確実に理解できるよう、手順のみ簡潔に示す。詳しい指示や説明が必要な場合は、スライド・写真・動画を活用。交流学級での課題の進捗状況を確認しサポートしたり、ノートの書き方を個別指導したりする。

2 通級指導教室の実践

内容	ねらい	方法
ビジョントレーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を飛ばして読んだり書いたりしてしまう児童、黒板の字をノートに書き写すことが苦手な児童、字形が整わない児童の、目の使い方を訓練することで、探す力・追う力・形を理解する力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画（ビデオ通話で画面共有） ・プリント（事前配付） 
認知機能強化の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことを頭で正しく理解し処理できるようにする。 ・集中力をつけたり、処理速度を上げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを使った後出しジャンケン ・プリント 
手の微細運動の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・手の使い方をトレーニングし、器用に使えるようにする。 ・書く負担を軽減し、タイピング力を強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リボンやなわとびを結ぶ練習 ・チャット機能の活用

3 成果と課題（○成果、●課題）

- 個別の時間がとれるため、保護者と面談の時間ができ、児童の様子を聞くなど連携しながら進めることができる。
- 見せたい物を提示する際に、フォーカスすることができるので、余計な刺激がなく注目させやすい。
- ビデオ通話では画面を共有できるので、動画やイラストを見せてトレーニングを行いやすい。
- 学校のように1教室に3学年別教科でそれぞれ指導という状況に陥ることがないため、課題の準備をしっかりとっておけば、それぞれの子どもたちが集中してたっぷり自分の課題に取り組める。
- 学級の個別課題を準備した後に、交流学級の課題を確認し、時間内及び自力達成が困難であれば、内容を変更、調整したり、サポート教材を入れたりするため、いつも以上に時間と手間がかかる。
- 家庭によっては、刺激があり落ち着かない様子で不安定になりやすく、学習環境の調整ができない。
- 文字と数を獲得していない子どもは、読む・書く・数える活動が難しく、体を動かさず・手を使う・見るなど限られた活動になる。飽きないように、バリエーションを増やすと、内容が定着しにくい。